

**第2回横浜市港北区地域ケアプラザ指定管理者選定委員会議事録**

日 時	令和2年4月9日(木) 午後1時25分から午後5時15分まで									
場 所	港北区役所1号会議室									
出席者	飯島委員、岡本委員、加藤修委員、加藤良一委員、川原委員、永野委員、西田委員、福松委員、宮田委員									
欠席者	なし									
開催形態	非公開									
議 題	1 面接審査 2 審査・選定									
決定事項	<p>次の法人を指定候補者として港北区長に報告する。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>施設名</th> <th>指定候補者</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>横浜市篠原地域ケアプラザ</td> <td>社会福祉法人 横浜市社会福祉協議会</td> </tr> <tr> <td>横浜市高田地域ケアプラザ</td> <td>社会福祉法人 緑峰会</td> </tr> <tr> <td>横浜市大豆戸地域ケアプラザ</td> <td>社会福祉法人 横浜市福祉サービス協会</td> </tr> </tbody> </table>		施設名	指定候補者	横浜市篠原地域ケアプラザ	社会福祉法人 横浜市社会福祉協議会	横浜市高田地域ケアプラザ	社会福祉法人 緑峰会	横浜市大豆戸地域ケアプラザ	社会福祉法人 横浜市福祉サービス協会
施設名	指定候補者									
横浜市篠原地域ケアプラザ	社会福祉法人 横浜市社会福祉協議会									
横浜市高田地域ケアプラザ	社会福祉法人 緑峰会									
横浜市大豆戸地域ケアプラザ	社会福祉法人 横浜市福祉サービス協会									
議 事	<p>会議の公開・非公開について、第1回選定委員会で決定したとおり、面接審査及び審査・選定は非公開とすることを確認。</p> <p>1 面接審査</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 1法人あたり、法人からのプレゼンテーション10分、質疑応答約20分で実施</li> </ul> <p>(1) 横浜市篠原地域ケアプラザ</p> <p>社会福祉法人 横浜市社会福祉協議会</p> <p>【法人によるプレゼンテーション】</p> <p>【質疑応答】</p> <p>(委員等) 災害時の要援護の方の受け入れ態勢について伺いたい。</p> <p>(法人) 福祉避難所としての役割があり、区からの要請があれば開設する。その他、発災直後に状況が落ち着くまでの間、地域の方が過ごす場所として利用してもらうことは想定される。</p> <p>(委員等) 現在の新型コロナウイルス感染症の影響で人の出入りが気になる状況の中、デイサービスは通常通り行っているが、今までとの対応の違い等を伺いたい。</p> <p>(法人) 市社協全体でこの時期は感染症予防として、利用者への手洗い・うがいのお願、除菌剤を使った加湿器の活用、時間ごとの換気、職員のマスクの着用など日ごろから行っている。</p> <p>コロナの影響については、デイサービス40人定員のところ、20名程度に減っている。利用者同士の距離を離し、利用者へ可能な範囲でマスク着用をお願いしている。また、レクリエーションの中で手作りマスクを作る等、日ごろの活動にプラスした対応を行っている。</p> <p>(委員等) 内部のケアマネジャーの育成等は説明があったが、外部のケアマネジャーとの連携や、区役所以外の困った時の相談先として対応する体制等を伺いたい。</p> <p>(法人) 定期的にケアマネサロンという勉強会を開催し、20名程度参加いただき、顔</p>									

の見える関係づくりや参加者同士のネットワークづくりの機会を設けている。また、地域包括支援センターの委託のケース訪問の際も、ケアマネジャーと同行し、顔の見える関係づくりを徹底している。

(委員等) フェイス・トゥ・フェイスの関係づくりを大切にしている印象だが、昨今の状況下で、関係先や内部の意思疎通の方法として今後工夫していきたいこと等あれば伺いたい。

(法人) 訪問自粛の中で、綿密にメールや電話でやり取りしている。また、ブログ等でも情報発信をしている。

(委員等) オンラインを使いこなせない人ほど、どこにもつながれないで悩んでいるのではないかと感じるが、そのような人にどう発信、アプローチしていくか。

(委員等) 民生委員として高齢者の見守り活動を行っているが、現在はコロナ対応で訪問できず、電話も全て留守電にしている人もいて苦労している。ケアマネジャーの月1回の訪問が行われていないという声も聞くが、どのように対応しているか伺いたい。

(法人) 当ケアプラザでは毎月1回、訪問できなくても連絡をするようにしている。必要に応じて玄関先でもいいから顔を見るようにしている。

契約関係がないサークル活動のみ参加の方や子育て世帯でオンラインを使いこなせない人との関係づくりは難しく、対面を自粛している中で厳しいのは確か。虐待等の課題が多く残ると考えられる。特に介護予防の活動の減退を危惧しているので、頑張りどころだと思う。

(委員等) 貸室の予約方法を伺いたい。

(法人) まず団体登録をしたのち、活動内容によって3か月あるいは2か月前から予約できる。予約は来館または電話で受け付けをする。空き状況はホームページで確認できる。

(委員等) 社会情勢が変わっていくなかで、今後の地域の変化に対し地域ケアプラザとしてのどのような課題や問題意識を持っているか伺いたい。

(法人) ケアプラザが把握できる地域の状況は限りがあるので、民生委員・児童委員とケアプラザ職員の連絡会を29年度から設け、情報共有を行っている。その中でエリアの課題を吸い上げている。一例として、ボランティア活動に女性が多く、男性へのアプローチが必要と考え、セカンドライフ講座を行った。

## (2) 横浜市高田地域ケアプラザ

社会福祉法人 緑峰会

### 【法人によるプレゼンテーション】

#### 【質疑応答】

(委員等) 人材育成で工夫していることがあれば伺いたい。

(法人) 同プラザ内で主任ケアマネジャーから社会福祉士など職種間異動を行っている。日吉本町地域ケアプラザとも連携して人材育成を行っている。

(委員等) ボランティアの担い手の確保について考えを伺いたい。

(法人) 地域の担い手確保は大きな課題と考えている。福祉保健活動団体の貸館登録が多いので、そこへのアプローチを考えている。

(委員等) 障害児・者向けに独自で行っている活動はあるか。

- (法人) 障害児余暇支援を15年以上前から行っている。昨今利用が減ってきたので、内容等を工夫していきたい。また、精神障害者対象のサロンを行っている。
- (委員等) 災害時の要援護者の受け入れ体制はどうなっているか。
- (法人) 福祉避難所としての役割がある。当ケアプラザは川の近くにあるため、水害も想定される。昨年の台風の際も、市民の方からの電話も多くあった。そのような場合に、どのように避難を誘導するか等これから具体的に考えていく。また、地域の防災拠点訓練等に参加している。
- (委員等) コロナによる活動自粛の影響はあるか。
- (法人) 貸館は休止だが、デイサービスは通常どおり行っている。4月に入って徐々に減ってはいるが、通常30名のところ、25～26名の利用となっている。
- (委員等) 高田地区の特徴として、会合場所が少ないという点があると思う。ケアプラザを多くの団体が使っており、団体との調整が多いと思うがどのように対応しているか。
- (法人) 地域には町内会の研修所とケアプラザしかない。重なってケアプラザの利用の応募があった場合は、3時間枠を1.5時間に分ける、部屋を仕切る等で対応している。また、一軒家を利用したフリースペースを設けており、そこを活用し利用を分散させている。
- (委員等) 学校やPTAとの連携は具体的に何をしているか。また、赤ちゃん会等での情報提供による成果を伺いたい。
- (法人) 福祉学習、認知症サポーター養成講座等を学校と連携して行っている。子育てネットワーク会議等で子育て支援団体等と情報共有等を行っている。
- (委員等) 新しいことにチャレンジすることを軸にしていると説明があったが、今回のプレゼンの中で新しい取組は何になるか。
- (法人) 法人の地域貢献として、一軒家を借りて居場所として提供している。いつまでもできるものでもないで、地域がどう自主運営できるようにするのが課題。また、山坂が多いので買い物支援や移送支援などを検討しているが、一方で車の確保が今後の課題。
- (委員等) 高田地区は中心地がなく、道路やマンションができるなど変化が激しい。その対応はどう考えているか。
- (法人) 平成19年に高田駅ができ、便利になった反面、駅から離れたところはバスが減便になるなど、地区の中で偏りが出ている。そこで移送支援が大事になってくると考える。

### (3) 横浜市大豆戸地域ケアプラザ

社会福祉法人 横浜市福祉サービス協会

#### 【法人によるプレゼンテーション】

#### 【質疑応答】

- (委員等) 地区の中でも地域性が異なるがどう考えているか。また交通の便が悪い坂の多いエリアについてはどう対応していくか。
- (法人) 毎月開催される各会議で地域性の違いによる課題やニーズを吸い上げて対応している。

新横浜はマンションが多く活動場所がないことが課題で、集いの場作りを行っ

ている。菊名は活動が活発で後方支援が中心。篠原の坂の多いエリアについては、集いの場を作ったり、お出かけバス等の外出支援や包括による個別のお迎えを行ったりしている。

(委員等) プレゼンの中で「地域ケア会議に地域住民を招いて」と説明があったが、個別に声掛けをして行ったのか。

(法人) スクエアステップ教室の参加者に声掛けをした。

(委員等) 大豆戸地区は交わりにくい地域も多くあるが、ケアプラザを拠点として、あるいは出張をして様々な事業を行っていて、地域に根付いていると感じる。

(委員等) 地域の特徴を分析して対応していることが伺える。

(委員等) 規模が大きい法人だが、メリット・デメリットはあるのか。

(法人) 月末に市内同法人のケアプラザ所長を本部に集め情報共有をしている。事務処理ミス案件を共有し、改善の徹底を図ることができる。職種ごとや階層ごとの研修を実施できることもメリット。また、昇任試験制度を設け、モチベーションの向上を図っている。デメリットとしては、本部にケアプラザを支援する部署を設置しているが、平日のみの営業のため、土日祝日は相談や指示等に時間がかかる。

(委員等) 法人の規模が大きいので内部との関わりが多くなると思うが、外部の事業者からの相談にはどのように対応しているか。

(法人) 個別の支援の相談や社会資源の情報提供等の相談が多い。定期的にケアマネ事業所向けの勉強会などを行い、積極的に情報交換をしている。

(委員等) BCPをしっかりと作っているが、感染症対策は盛り込まれているのか。イベントや勉強会等を積極的に仕掛けているが、昨今の状況でどのような対応を考えているか。

(法人) BCPを年1回見直しし、必要であれば状況に応じて改定している。感染症については、福祉施設のサービス別のマニュアルに沿って対応している。

今は外に出られないが、6月以降にはラジオ体操など身体を動かすイベントの実施を検討するなど、日々アイデアを蓄積している。

(委員等) 災害時の要援護者の受け入れや対応について伺いたい。

(法人) 災害時は福祉避難所として対応する。昨年の台風時にはどこに避難するか等の問合せを多く受けたが、区役所からの情報を基に案内をした。その後の高齢者の食事会などでも改めて災害時のケアプラザの役割を周知した。

(委員等) 子育てサークルとの関わり方を伺いたい。

(法人) 子育て支援拠点との共催事業を行い、子育てサークルとのつながりを作っている。子育て世代はインターネットでの情報収集が中心なので、なるべくホームページ等での情報提供を心がけている。

(委員等) 広報物の回覧は町内会を通じて行っているか。ボリュームが多すぎるとなかなか読んでもらえないが、何か工夫はあるか。

(法人) ケアプラザごとに広報物を作成し、回覧や掲示をお願いしている。A3 両面で2か月に1回のペースで作成し、なるべく実施日が近い情報を中心に掲載している。

## 2 審査・選定

事務局より財務状況評価及び資格審査結果について報告。

### 【審査結果】

施設名	応募法人名	得点
横浜市篠原地域ケアプラザ	社会福祉法人 横浜市社会福祉協議会	2,264点/2,835点
横浜市高田地域ケアプラザ	社会福祉法人 緑峰会	2,075点/2,745点
横浜市大豆戸地域ケアプラザ	社会福祉法人 横浜市福祉サービス協会	2,248点/2,835点

審査の結果、すべて最低制限基準を満たしているため、それぞれの応募法人を指定候補者に選定することを委員全員一致で決定。

### 【講評】

#### ○ 篠原地域ケアプラザ

申請書類からは読み取れない部分もあったが、プレゼンテーションは簡潔で分かりやすく、理解することができた。

熱心にこれまでも地域ケアプラザの運営に取り組んできたことが感じられた。担当している地域における活動が活発で、地域の活動を支援し、良い関係を作ることができている。法人のビジョンにも地域福祉の推進があり、こども、障害者への支援の更なる充実に期待したい。今後地域における活発な地域活動を支えるためにも、担い手の育成に期待している。

#### ○ 高田地域ケアプラザ

申請書類に個々の事業についての評価や効果についての記述が欲しかったところだが、質疑応答によって具体的な活動や考え方を理解することができた。

地域の課題を良く把握し、しっかり考察した上で解決に向けて取り組んでいることが感じられた。これまでも地域に活動場所がないことに対して法人の地域貢献として一軒家を借り上げて地域に提供するなど取り組みを進めてきたことは評価できる。今後の活動場所の活用や買い物支援、移送支援など、地域の課題解決の取組に期待したい。

#### ○ 大豆戸地域ケアプラザ

法人のスケールメリットを生かし、マニュアル等の整備や危機対応等を含めて、マネジメントが非常にしっかりしている。地域分析をしっかり行ったうえで、個々の事業を企画し、対応していることは評価できる。団体の理念に「お客様」とあるが、地域ケアプラザでは地域と一緒に進めていく感覚を大切に、今後子育て支援や健康づくりも含めて、血の通った地域支援に期待したい。

**第2回横浜市港北区地域ケアプラザ指定管理者選定委員会議事録**

日 時	令和2年4月16日(木) 午後1時25分から午後4時30分まで									
場 所	港北区役所1号会議室									
出 席 者	飯島委員、岡本委員、加藤修委員、加藤良一委員、永野委員、西田委員、福松委員、宮田委員									
欠 席 者	川原委員									
開 催 形 態	非公開									
議 題	1 面接審査 2 審査・選定									
決 定 事 項	<p>次の法人を指定候補者として港北区長に報告する。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>施設名</th> <th>指定候補者</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>横浜市下田地域ケアプラザ</td> <td>社会福祉法人 横浜共生会</td> </tr> <tr> <td>横浜市榎町地域ケアプラザ</td> <td>社会福祉法人 横浜共生会</td> </tr> <tr> <td>横浜市中心郷小机地域ケアプラザ</td> <td>社会福祉法人 秀峰会</td> </tr> </tbody> </table>		施設名	指定候補者	横浜市下田地域ケアプラザ	社会福祉法人 横浜共生会	横浜市榎町地域ケアプラザ	社会福祉法人 横浜共生会	横浜市中心郷小机地域ケアプラザ	社会福祉法人 秀峰会
施設名	指定候補者									
横浜市下田地域ケアプラザ	社会福祉法人 横浜共生会									
横浜市榎町地域ケアプラザ	社会福祉法人 横浜共生会									
横浜市中心郷小机地域ケアプラザ	社会福祉法人 秀峰会									
議 事	<p>会議の公開・非公開について、第1回選定委員会で決定したとおり、面接審査及び審査・選定は非公開とすることを確認。</p> <p>1 面接審査</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 1法人あたり、法人からのプレゼンテーション10分、質疑応答約10分で実施</li> </ul> <p>(1) 横浜市下田地域ケアプラザ 社会福祉法人 横浜共生会</p> <p><b>【法人によるプレゼンテーション】</b></p> <p><b>【質疑応答】</b></p> <p>(委員等) 自主事業をかなりたくさんやっている。課題として担い手不足があるが、事業の企画運営はケアプラザの職員が行っているのか。また、実際の運営はボランティアか、決まった自主事業に対して決まったボランティアが関わっているのか。</p> <p>(法人) 事業の企画運営はケアプラザ職員が中心に、外部講師や地域のケアマネジャーや保健活動推進員等の協力を得ながら運営を行っている。また、事業別にボランティアを募っており、その方々と一緒に運営等を行っている。</p> <p>(委員等) ケアプラザによっては自主事業を地域につなげ、地域のグループが自主事業として行っているところもあるが、そのようなことはしているのか。</p> <p>(法人) そういったこともしている。我々だけでは全てをまかなえないので、地域の方々にご協力いただきながら、様々な事業で、まずはきっかけとして参加してもらい、そこで事業の目的を理解していただいた上で、最終的にはボランティアの方々を中心に進めている事業もたくさんある。また、発掘するというので、先ほど紹介したセカンドライフカレッジがある。まずは勇気を出して一歩踏み込むきっかけとし、そこで習いながら自身で活動に入っていく仕組みづくりを行っている。</p>									

(委員等) セカンドライフカレッジの話が出たが、男性の参加はどこのケアプラザも苦勞していると聞く。成功したポイントが1つ2つあれば教えていただきたい。

(法人) もともとは平成27年～28年の日吉地区地域ケア会議で出た意見で、特にボランティア団体から、新しいボランティアが来ない、特に男性が集まらないといった声をいただき、日吉本町地域ケアプラザを含めた日吉地区全体の男性の参加のきっかけづくりとして企画した。事業の特徴としては、全6回の連続講座で全て同じ人が参加するという点、また、その都度食事も一緒にするという点で、「はじめまして」から話ができる関係づくりまでフォローさせていただいた。約3ヶ月間の講座を実施後、知り合いになった方同士で何かしませんかという投げかけをし、月1回定期的な個々の得意分野についての勉強会や地域を知るための見学会などが行われている。特にケアプラザに関心のある方については、体操養成指導を紹介し、昨年秋に体操指導のデビューをした。また、相談部門から上がってきた事例で、若いうちに脳卒中を患った方から、庭木を切ってほしいとの話があり、セカンドライフカレッジの方に投げかけ、自主的に集まって剪定に協力してもらおう取組につながっている。これは昨年で2期目になっている。日吉地区はベットタウンなので、若い頃から地域に繋がっていない方にも地域の活動を通し喜ぶ体験を提供していきたい。これまでもボランティア講座と題して色々行ってきたが、なかなか関心を得られなかったことから、様々な企画・内容を揃えている。例えば、スターバックスの方に来ていただいて美味しいコーヒーの入れ方講座や、麒麟ビールの方に来ていただいて美味しいビールの注ぎ方講座など工夫し、楽しんで参加しているうちに気づいたら地域の中に入っていける筋道を作るような企画としてやっている。

(委員等) 経営の安定化のところで、2年前少し下がり、去年上がった。もう一段階伸ばすのは難しいところだが、何か新しい取組で今年やってみようかなと思っていることがあれば伺いたい。

(法人) デイサービス以外にも居宅介護支援、地域包括支援センター、地域交流がありその4つの力が結集してケアプラザの力が生かされるので、日頃からそれぞれの部門が地域に出て、関係づくりや信頼を得よう事業を行っている。デイサービスでも日々いろいろな方が来ているので、そこで行っているノウハウを他の事業に発展し、地域に発信し、新たな利用者を増やすことにつなげていきたい。法令遵守を大前提とし、下田地域ケアプラザの強みや特徴を最大限に生かし、職員全体で進めていきたい。

(委員等) 地域的に見ると、サンヴァリエ日吉の北側あたりの人が下田地域ケアプラザに来るが、山を超えてサンヴァリエから南の方に降りると深い谷になってその先にさらに山があり鯛ヶ崎くらいまでが地域だと思うが、その辺りの人は来ないのではないかと思うが、どのようにお考えか。

(法人) ケアプラザの圏域は中学校区のエリアが目安だが、全てカバーするのは難しい。なので、エリアの中で小学校が下田小と駒林小の2つあるので、そこを分けて、それぞれの特徴を把握している。下田小エリアは地域ケアプラザに近く、下田公会堂もあるが、坂を降りた駒林小エリアは居場所がないという

のが課題。居場所や集える場所を模索している。日吉本町駅にはイキイキ会館があり、そこを会場に介護予防の取組等を企画している。そこでケアプラザを知ってもらいつつ、新たな課題を把握し、次の取組を地域の皆さんと考えていきたい。補足として、相談や自主事業の申し込みについて、どこからが多いのか傾向を調べている。下田町4・5丁目が多いが、行きやすさというのが如実に出ています。一方で、下田町2丁目は少ない。また、日吉本町の中でも駅に近い方が少なく、相談に来にくいというのは内部でも共有をしています。特に、日吉本町6丁目は集まる場所自体もなく、相談もギリギリの状況にならないとあがって来ないので、出張相談なども行っている。

## (2) 横浜市樽町地域ケアプラザ

社会福祉法人 共生会

### 【法人によるプレゼンテーション】

#### 【質疑応答】

(委員等) デイサービスを大規模Iから通常規模に変更すると何が変わるか。

(法人) 年間の利用者数が約1万人となる。月あたりの利用者数の平均が、現在の34名から30名以下に変更となる。1回1名あたりの単価が300~500円増える。

(委員等) デイサービスの変更は、経営内容は良くなるが、地域の需要に対する供給を考えると逆の現象になるのではないか。

(法人) 多様なサービスが求められる時代となっているので、これから先を見据えると大人数、集団だと対応が難しい。当ケアプラザのデイサービスの利用者は年々減少している。そのニーズの中で、当ケアプラザはどなたでも受け入れるスタンスで開所からやってきており、医療ケアや認知症など多様化する地域のニーズにケアプラザとして応えられると考える。

(委員等) 当ケアプラザのデイサービスを見学した際、ボランティアも多く、利用者が困ったときにスッと手を差し伸べることができる良いデイサービスだと思ったが、通常規模に変更することによる変化は生じるのか。

(法人) 利用者の人数が減り、その分職員も多少減るが、サービス内容は変更しない。

(委員等) 樽町にはデイサービスは他にあるのか。来にくいところ、綱島東あたりについてはどう考えているか。

(法人) 当ケアプラザの担当エリアには、数年で急激に増え、17箇所デイサービスがある。綱島東についてケアプラザは送迎車により対応している。

(委員等) デイサービスの利用者を受け入れるかどうかの線引き、基準はどのようにしているのか。

(法人) 希望があれば受け入れるが、年々応募が減っている状況なので、規模数を減らす。利用者数を減らすという趣旨ではない。担当エリア内の事業者数が増え、リハビリに特化したデイサービスを利用する方が増えていることもあり、ケアプラザのデイサービスの利用者が減っている。

(委員等) サービスを変更することにより、他の部門で力を入れるのはなにか。

(法人) まず、経営安定していく。その上で他の分野にも力を入れられる。



(委員等) 明瞭なプレゼンで分かりやすかった。ケアプラザの場の活用やボランティアの育成について、今後の課題などあれば伺いたい。

(法人) 担い手不足の課題は大きい。ボランティアをどう集めるか、どう参加してもらうかが課題。ケアプラザの事業に参加して、そこから町内会の役員になり、現在会長になっている人もいるので、ケアプラザで何かを行ってつなげていくことも一つの手だと考える。現在、ケアプラザの玄関前で色々な事業を、垣根を超えてやっている。そういったところに少しでも参加して、地域の活動を知ってもらい、それぞれ地区で活動してもらえる流れを作っていきたい。他とは違う取組としては、「玄関前プロジェクト」があり、障害のある地域の方による販売を行っている。はじめはベンチを置くだけだったが、現在販売を行っており、今後公園に来る方や幼稚園など地域の方が参加して何かやることを目標としている。

(委員等) 福祉のコンビニエンスストアというコンセプトは素晴らしいと思う。コンビニエンスストアは便利であることと、常に進化している業態のイメージで、後者も目指してほしい。新しいことを何か考えていけば伺いたい。サービスレベルや元々の魅力度を上げるような何か考えがあれば伺いたい。

(法人) 今年度、綱島分室が横浜市のモデル事業として開所したが、もともと法人がお金を出して設置した。エリアの広さにより住民の利便性が損なわれてはいけないと考え法人として設けた。また、玄関前プロジェクトは、すぐ隣の公園に様々な人が集い、その方々がトイレを借りに来るので、そのついでにケアプラザの活動を知ってもらうきっかけづくりをしている。デイサービスについても、大人数で同じことするのではなく個別に対応できるプログラムを取り入れることを心掛けているので、利用者は減っているがコンビニエンスストアのように進化していきたい。

### (3) 横浜市城郷小机地域ケアプラザ

社会福祉法人 秀峰会

#### 【法人によるプレゼンテーション】

#### 【質疑応答】

(委員等) 小机城がある突き当たりの古い地域と住宅地のある発展した地域とがあるが、変化していく地域のボランティアや担い手をどうしていくのか伺いたい。

(法人) 担い手不足は取り組んでいる大きな問題の一つ。ただ、現状担い手が皆無というわけではない。担い手がいても、既存の団体の方が排他的だったり、今までのやり方に固執したりする面が見られるので、そこをケアプラザが時間をかけて話し合いをしていき、担い手とのマッチングに今後も努力していきたい。また、近隣の小中学校も地域との関わりを重要視しているので、小中学校の頃からボランティア活動に親しんで、城郷地区ではボランティア活動をするのが当たり前という風潮を作っていきたい。

(委員等) ボランティアに絡んで情報発信等が必要だが、現状どういった工夫をしているのか、またこれからどういう情報発信やボランティアの育成を目指しているのか伺いたい。

(法人) ケアプラザの入口すぐのところに、募集しているボランティア情報とボラ

ンティアをしたいが何かないかという担い手側の情報について、持ち帰りやすいよう小さな紙に載せたものを配架している。また、インターネットでの発信については法人として整備中。

(委員等) 資料が整っており、連携という意味で分かりやすいが、地域としての社会資源で不足しているものは何かあるか。これからの指定期間5年間の中でそこについての取組として何か目標などあれば伺いたい。

(法人) 社会資源は非常に豊富な地区。挙げるなら、保育園の数が少ないと言う声が地域の方々の中からあがっており、解消にはまだ至っていない。これからの5年間の取組でいうと、色々な連携を模索していく中で、これまでは地区センターとの連携が不足していた。運営法人が違うこともありそれぞれで活動していた。一方で、地域の方と話をすると、地域の方はケアプラザも地区センターも同一と捉えていると感じる。地区センターとの秋のイベントや定例の情報交換によって、ある程度一体的に運営できるようになり、地域の方からも非常に喜ばれている。これからも続けて行こうと考える。

(委員等) 各方面との連携をしているという話だったが、区をまたぐ連携において障害になることは何かあるか。

(法人) 多少足並みが揃わないこともあるが、活動が進まないほど大きな障害は感じていない。当ケアプラザは区の南西に位置し、半径1キロ圏内に神奈川区や緑区がある立地になっている。近隣の城郷中の学区に緑区東本郷が入っていて、地域ケアプラザが何かしらのアプローチをする場合、それぞれアプローチするより一緒にする方が合理的と考える。

(委員等) 資料が丁寧に作られており、活動も丁寧にされているという印象を受けたが、逆にケアプラザとして一番重視していることや課題をどこに設定しているかが見えなかったので伺いたい。

(法人) 課題としては、担い手不足であり、実際に解決していないのが事実。我々の代で辞めるという団体もある。城郷地区で活動してきた歴史は貴重なことなので、今後は、団体にも柔軟に対応してもらい、新しく担い手になる人にも自分の考えだけではなく団体の方針にも柔軟に対応してもらい、お互いの話し合いに時間をかけてマッチングすることの必要性がある一方で、現状ではそれができていないので、取り組んでいかないといけない課題と考える。

(委員等) 理念も育成システムも素晴らしいので、是非頑張ってもらいたい。

## 2 審査・選定

事務局より財務状況評価及び資格審査結果について報告。

### 【審査結果】

施設名	応募法人名	得点
横浜市下田地域ケアプラザ	社会福祉法人 横浜共生会	1,939点/2,440点
横浜市樽町地域ケアプラザ	社会福祉法人 横浜共生会	1,882点/2,440点
横浜市城郷小机地域ケアプラザ	社会福祉法人 秀峰会	2,046点/2,520点

審査の結果、すべて最低制限基準を満たしているため、それぞれの応募法人を指定候補者に選定することを委員全員一致で決定。

【講評】

○ 下田地域ケアプラザ

デイの収入安定化など、目標がしっかりしていることが分かったが、他の事業の目標についてもプレゼンテーションで明示してほしい。

男のセカンドライフカレッジなど、地域の担い手不足に真摯に取り組んでいる。認知症カフェなども含めて、企画する事業に工夫が凝らされていることが分かった。

法人も方針に掲げた地域住民の自助、共助の支援強化については地域と密着した取組を期待したい。また圏域内に地域ケアプラザへ行くのが難しいエリアを抱えており、法人としても分析しているが、今後より具体的な取組を進めるよう期待したい。

○ 樽町地域ケアプラザ

福祉のコンビニエンスストアを目指すというコンセプト、フェイスブックやツイッター、インスタグラムなど、時代を捉えた今後の情報発信の計画が明確となっている事は評価できる。法人の特性もあり、障害者への支援が充実している。玄関前プロジェクトなども人材確保へ繋げるなどコンセプトが明確である。今後インスタグラムなどを充実させるには、地域ケアプラザの活動自体を魅力あるものにする必要がある、期待したい。

8万人を超える圏域人口に対応するため、地域の将来を見据え、これまで法人として相談室等を整備して対応してきたことは高く評価できる。今後新駅ができ、マンションが増え、人口増が確実視される中で、本来樽町のエリアは地域ケアプラザが4館必要で、それができなくてもせめて3館又は2館の地域ケアプラザは絶対必要と考える。地理的にも広すぎ、綱島や師岡の住民にとっては遠すぎていけない場所になってしまっている。ケアプラザの整備について、市の取組に期待する。

○ 城郷小机地域ケアプラザ

活動内容は分かったが、その結果としてどんな効果があったのかがわからなかった。また今後の取組についての計画がなかったが、資料は多く、よく整っていた。

他区やボーイスカウト等数々の社会資源、団体と良好な関係を作ることができており、その業務に向かう姿勢、ノウハウは高く評価できる。この地域ケアプラザ独自のノウハウがあるはずで、そのノウハウの分析をして、次世代の職員へ伝えてほしい。また次世代の担い手不足が課題として挙がっていたが、地区センター等と多様な連携ができており、そうした連携の中で解決を模索していくことを期待している。